



トークセッション 中東の紛争・難民問題から平和を考える

【登壇者プロフィール】

○佐藤 真紀 氏（特定非営利活動法人日本イラク医療支援ネットワーク事務局長）



青年海外協力隊でイエメンに赴任するも内戦勃発、その後シリア、パレスチナで活動、国連ボランティアなどを経て、日本国際ボランティアセンター（JVC）パレスチナ事務所代表、2002年からイラクにかかわり、イラク戦争では、緊急救援を指揮。2004年に鎌田寛らと日本イラク医療支援ネットワークを立ち上げ現職に。2005年から5年間、JANICで危機管理安全管理研修の助言委員。中東での活動には定評があり、専門書や学会発表のほか、デザイナーとして子ども向け絵本や、チョコ募金などのパッケージを手掛けている。

（参考）パルシステム東京 平和カンパで支援するプロジェクト

イラク 白血病などの治療を受ける子どもたちへ

イラク戦争で使用された劣化ウラン弾により、難病になった子どもたちへの医療支援を実施。その一人で、カンパ金による支援で白血病を克服したハウラさんが昨年来日。パルシステム東京組合員に「戦争の犠牲になるのは子どもたち」「治療を待つ子どもたちに支援を」と訴えました。

日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）



○中村 哲也 氏（特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン 海外事業チーフ）



2006年よりパレスチナ子どものキャンペーンの広報・現地事業担当としてパレスチナやレバノンの難民キャンプを頻繁に訪問。東日本大震災では避難所での炊き出しや物資配布などに7か月間従事。その後、エルサレム事務所代表を2年半務め、ガザでの農業事業などを実施する。現在は東京事務所で主にガザでの事業運営を担当。

（参考）パルシステム東京 平和カンパで支援するプロジェクト

パレスチナ（ガザ地区）爆撃で破壊されたガザの子どもたちへ

イスラエル軍の攻撃で封鎖されたガザ地区。破壊された家で暮らす家族の電気の使用は一日6時間だけ。1月には洪水も発生し、震える日々を過ごしました。カンパ金は、団体が運営する児童館の、子どもたちへの心理サポートや教育、母親への支援活動などに使われます。

パレスチナ子どものキャンペーン



©パレスチナ子どものキャンペーン

○景平 義文 氏 (AAR Japan [難民を助ける会] プログラムコーディネーター (シリア難民支援統括))



2012年より AAR Japan [難民を助ける会] 東京事務局でシリア難民支援を担当。

大学院卒業後、ケニアでの NGO 勤務を経て AAR へ。年間の半分をトルコで活動し、日本では NHK 総合「ニュース深読み」、BS 朝日「いま世界は」など出演、シリア難民の窮状を伝え続けている (大阪府出身)。

(参考) パルシステム東京 平和カンパで支援するプロジェクト

トルコ (シリア難民) 紛争で故郷を追われた子どもたちへ

2011年のシリアでの内戦勃発後、隣国トルコに逃れたシリア難民は約270万人。子ども達は家計を助けるため、長時間働き、学校にも通えません。カンパ金は、家族などに通学への理解を促すための啓発活動や、困窮世帯への経済的支援に使われます。



©AAR Japan/川畑嘉文